

科目名	公民科 公共		学年	類型・コース	単位数
			1 学年		2 単位
学習の目標	諸資料から情報を得る技能を身につける。現実社会の諸課題の解決にむけて、公正に判断する力、社会参画を視野に入れて話し合う力をつけ、主体的に解決しようとする態度を養う。				
使用教材	教科書：実教 「公共」 副教材：				
評価	評価法	定期考査、小テスト、レポート、振り返りシート、ディベート、班討議と発表			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、および倫理・政治・経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	
		b	思考・判断・表現	現代の諸課題について、事実をもとに概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	国家および社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
一学期	4月	1	第1編 公共の扉	人生においてどのような意味を持っているか パーソナリティ理論 アイデンティの形成 働くこと、社会参加の意義 日本人の伝統的自然観、倫理観	中 間 考 査	中 間 考 査	ノ ー ト ・ グ ル ー プ 討 議
		1	第1章 社会を作る私たち				
1		1. 生涯における青年期の意義					
1		2. 3.自己形成の課題(1)(2)					
1		4. 職業生活と社会参加					
5月	1	5. 伝統・文化と私たち	理想的な人間の生き方について 科学的思考について カントとヘーゲルの自由について サルトルの自由と社会参画	中 間 考 査	中 間 考 査	ノ ー ト ・ グ ル ー プ 討 議	
	1	第2章 人間としてよく生きる					
	1	1. 古代ギリシアの人間観					
	1	2. 科学と人間					
	1	3. 自由の実現					
6月	1	4. 社会を作る人間	個人の幸福と社会全体の幸福・利益 ロールズ、センの公正な社会	中 間 考 査	中 間 考 査	ノ ー ト ・ グ ル ー プ 討 議	
	1	第3章 他者とともに生きる					
	1	1. 人間と幸福					
	1	2. 公正な社会をめざして					
	1	第4章 民主社会の倫理					
7月	1	1. 人間の尊厳と平等	市民革命、民主政治の誕生 法の支配 議会制民主主義、多数決原理 議院内閣制、大統領制	中 間 考 査	中 間 考 査	ノ ー ト ・ グ ル ー プ 討 議	
	1	2. 自由・権利と責任・義務					
	1	第5章 民主国家における基本原理					
	1	1. 民主政治の成立					
	1	2. 民主政治の基本原理					
7月	1	3. 民主政治のしくみと課題	日本国憲法成立の過程 三大基本原理 自由権 平等権 社会権 新しい人権 公共の福祉 日米安全保障条約と自衛隊 集団的自衛権 新しい人権 公共の福祉 日米安全保障	中 間 考 査	中 間 考 査	ノ ー ト ・ グ ル ー プ 討 議	
	1	4. 世界の主な政治制度					
	1	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち					
	1	第1章 日本国憲法の基本的性格					
	1	1. 日本国憲法の成立					
1	2. 日本国憲法の基本的性格						
1	3. 自由に生きる権利 4. 平等に生きる権利						
1	5. 社会権と参政権・請求権 6. 新しい人権						
1	7. 人権の広がりや公共の福祉						
1	8. 平和主義とわが国の安全						
1	9. こんにちの防衛問題						

二 学 期	9 月	第2章 日本の政治機構と政治参加	国会の権限、役割について 内閣、行政権の拡大、官僚政治の課題 裁判員制度 団体自治と住民自治 政党政治、選挙制度の特徴と課題 マスメディア・市民運動の意義	中間 考 査	中間 考 査 ・ 発 表	ノ ー ト ・ グ ル ー プ 討 議
		1 1. 政治機構と国会				
		1 2. 行政権と行政機能の拡大				
		1 3. 公正な裁判の保障				
		1 4. 地方自治と住民福祉				
		2 5. 政党政治 6. 選挙制度				
		1 7. 世論と政治参加				
	10 月	第1章 現代の経済社会	経済の概念、資源の配分 資本主義の発展 需要と供給、市場 株式会社、企業の役割と社会的責任 経済指標について 景気の変動、経済成長と幸福・豊かさ 金融市場、各種金融機の役割 日本銀行の役割、金融政策 財政の3つの役割、財源について 納税者として租税を考える	期 末 考 査	期 末 往 査 ・ 発 表	ノ ー ト ・ グ ル ー プ 討 議 ・ 振 り 返 り シ ー ト
		1 1. 経済主体と経済活動の意義				
		1 2. 経済社会の変容				
		1 3. 市場のしくみ				
		1 4. 市場の失敗				
		1 5. 現代の企業				
		1 6. 国民所得				
	11 月	1 7. 経済成長と国民の福祉	日本経済の成長 人口減少社会、格差貧困、SDGs 経済の2重構造、中小企業の現状 農業の現状と6次産業 消費者問題 公害、環境保護、循環型社会 労働基本権、労働3法、 ワークライフバランス、日本的雇用形態の変 化 社会保障の役割 受給と負担	期 末 考 査	期 末 往 査 ・ 発 表	ノ ー ト ・ グ ル ー プ 討 議 ・ 振 り 返 り シ ー ト
		1 8. 金融の役割				
		1 9. 日本銀行の役割				
		1 10. 財政の役割と租税				
		1 11. 日本の財政の課題				
		1 第2章 日本経済の特質と国民生活				
1 1. 戦後日本経済の成長と課題						
12 月	1 2. 転機に立つ日本経済	国際社会と国際法 国際連合の主要機関と国際協力 大国のナショナリズム、民主化運動 ナショナリズムと多文化主義 冷戦、軍拡、軍縮、核抑止論、安全保障 国際社会で日本の果たす役割  比較生産費説と国際分業 円相場、円高と円安 IMF・GATT 各地での経済統合・自由貿易の進展 グローバル化、多国籍企業、南北問題 SDGsにつながる援助 各自の立場から主体的に他者と協力して持続可能 な地域・国・社会づくりについてどうかわるか考 える	学 年 末 考 査	学 年 末 考 査 ・ 発 表	ノ ー ト ・ グ ル ー プ 討 議 ・ 振 り 返 り シ ー ト	
	1 3. 経済社会の変化と中小企業					
	1 4. 農業と食料問題					
	1 5. 消費者問題					
	1 6. 公害の防止と環境保全					
	1 7. 労働問題と労働者の権利					
	1 8. 今日の労働問題					
三 学 期	1 月	第1章 国際政治の動向と課題	比較生産費説と国際分業 円相場、円高と円安 IMF・GATT 各地での経済統合・自由貿易の進展 グローバル化、多国籍企業、南北問題 SDGsにつながる援助 各自の立場から主体的に他者と協力して持続可能 な地域・国・社会づくりについてどうかわるか考 える	学 年 末 考 査	学 年 末 考 査 ・ 発 表	ノ ー ト ・ グ ル ー プ 討 議 ・ 振 り 返 り シ ー ト
		1 1. 国際社会と国際法				
2 月	1 2. 国際連合と国際協力	国際社会と国際法 国際連合の主要機関と国際協力 大国のナショナリズム、民主化運動 ナショナリズムと多文化主義 冷戦、軍拡、軍縮、核抑止論、安全保障 国際社会で日本の果たす役割  比較生産費説と国際分業 円相場、円高と円安 IMF・GATT 各地での経済統合・自由貿易の進展 グローバル化、多国籍企業、南北問題 SDGsにつながる援助 各自の立場から主体的に他者と協力して持続可能 な地域・国・社会づくりについてどうかわるか考 える	学 年 末 考 査	学 年 末 考 査 ・ 発 表	ノ ー ト ・ グ ル ー プ 討 議 ・ 振 り 返 り シ ー ト	
	1 3. こんにちの国際政治					
	1 4. 人種・民族問題					
	1 5. 軍拡競争から軍縮へ					
	2 6. 国際平和と日本の役割					
	第2章 国際経済の動向と課題					
	2 1. 貿易と国際収支					
	1 2. 外国為替市場のしくみ					
	1 3. 第二次世界大戦後の国際経済					
	1 4. 地域的経済統合の進展					
3 月	2 5. 国際経済のつながりと課題6. 発展途上国 の諸課題と日本の役割	各自の立場から主体的に他者と協力して持続可能 な地域・国・社会づくりについてどうかわるか考 える	学 年 末 考 査	学 年 末 考 査 ・ 発 表	ノ ー ト ・ グ ル ー プ 討 議 ・ 振 り 返 り シ ー ト	
	2 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる 私たち					

担当者からのメッセージ (学習方法など)

グループでの話し合いでは個人の取り組み状況が把握しにくいため、班での発表、意見交換の状況をシートに記入させ、評価につなげたい。

# [地理・歴史]

令和4年度	科目名 世界史A	単位数 2	学科・学年 全学科・2学年
-------	-------------	----------	------------------

## 1, 学習の到達目標

学習の到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	高等学校 改訂版 世界史A (第一学習社)

## 2, 評価の観点

評価観点	定期考査	授業の取組	ノート提出	課題提出	科目による評価規準 授業中の取り組みの姿勢、提出状況を特に重視する。
	◎	◎	◎	◎	
	○	○	○	○	
	◎	○	○	○	
	◎	◎	◎	◎	

## 3, 年間計画

月	週	相当時間	学習項目	学習到達目標	学習の方法		
4	3	3	■ユーラシアの諸文明 中国文明の成立から皇帝政治 中国の分裂と隋唐帝国の形成	中国中心に東アジア世界が形成されたことと、日本との関係を理解させる。仏教の成立とその広がりを把握させる。オリエント世界の形成・発展の過程やイスラーム教の成立と発展について理解させる。ヨーロッパ世界の形成・発展とキリスト教の成立とその広がりについて理解させる。	講義 講義 講義 演習 小テスト 講義 講義 講義		
5	4	2	宋の成立と東アジア諸地域				
		2	南アジア、東南アジア世界の成立				
		1	オリエント、イスラーム世界				
		1	古代ギリシアとローマ				
		2	東西ヨーロッパ世界、アフリカ				
6	4	2	アメリカ、ユーラシアの交流				
		2	■結びつく世界と近世日本			ヨーロッパ中心の世界の一体化と王権の強化による絶対主義の成立についての知識を身につけさせる。	講義 講義 演習 期末考査 講義 演習
		2	清と東アジア、内陸アジア				
		2	オスマン帝国とサファヴィー朝				
		2	大航海時代、アメリカ大陸				
7	1	2	ルネサンスと宗教改革				
		2	ヨーロッパ主権国家、科学革命				
9	4	2	■ヨーロッパアメリカの工業化と国民形成	市民革命による近代市民国家の成立と資本主義体制の確立と世界の動きについて把握させる。	講義 講義 講義 講義 演習 演習 講義 講義		
		2	産業革命と労働運動				
		2	アメリカ独立革命				
		2	フランス革命				
		2	イギリスに挑戦するナポレオン				
		2	ウィーン体制、2月革命				
		2	イタリアとドイツの統一				
		2	南アジアの植民地とインド帝国				
		2	清の動揺、明治維新と東アジア				
11	4	2	■帝国主義の時代			帝国主義下の植民地争奪と第1次世界大戦、戦間期の動きと第2次世界大戦への過程を理解させる。	講義 講義 演習 期末考査 講義 講義 講義
		2	帝国主義、列強、				
		2	アジア太平洋の分割とロシア				
		2	■世界戦争と平和				
		2	第一次世界大戦、ロシア革命				
		2	ヴェルサイユ・ワシントン体制				
		2	東アジアの民族運動、世界恐慌				
		2	ファシズム、日本の軍国主義と中国				
12	1	2	国				
1	3	2	■三つの世界と日本の動向	東アジアにおける日本の主権回復と領土問題、安保条約について学び、国際社会の一員としての役割について理解させる。	講義 講義 講義 講義		
		2	戦後の東アジア、西アジア、アフリカ				
		2	第三世界とラテンアメリカ				
		2	変容する冷戦				
2	4	2	ベトナム戦争				
		2	■地球社会への歩みと課題			第2次世界大戦後の国際連合の成立と、米ソを中心とする冷戦体制と終結について学ばせ、現代社会の成立過程を理解させる。	講義 講義 講義 講義
		2	アメリカの動揺、アジアの変容				
		2	アフリカ、ラテンアメリカの変容				
		2	冷戦後のアメリカと国際社会				
		2	21世紀の世界と日本				
3	1	2	■持続可能な社会への展望				

令和4年度	科目名	単位数	学科・学年
	日本史A	2	全学科・3学年（選択）

### 1, 学習の到達目標

学習の到達目標	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察することによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
使用教科書・副教材等	「新日本史A 新訂版」(実教出版)

### 2, 評価の観点

	定期考査	授業の取組	ノート提出	課題提出	科目による評価規準
評価観点	関心・意欲・態度	◎	◎	◎	授業中の取り組みの様子、提出物の提出状況を特に重視する
	思考・判断・表現	○	○	○	
	資料活用 of 技能	○	○	○	
	知識・理解	◎	○	○	

### 3, 年間計画

月	週	学習項目	学習到達目標	学習の方法
4	3	2 近代以前のあゆみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校歴史分野の学習内容をふりかえる</li> <li>・江戸時代の鎖国下での日本の対外関係、幕藩体制の動揺について理解する。</li> </ul>	演習、講義
		第1章 近代国家と社会の形成 第1節 世界と東アジア		
5	4	2 開国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開国に至る経緯と、幕府の対応について理解する。</li> <li>・開国以後の情勢について、幕府が崩壊した一連の流れを理解する。</li> </ul>	講義 講義
		2 ゆれ動く幕末の政治と社会 2 御一新への期待と明治維新		
6	4	2 国境の画定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治政府の初期の諸政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。</li> <li>・この時期に、日本の領土が国際的に確定したことも理解する</li> </ul>	中間考査 講義 講義
		1 明治政府の諸改革		
		1 自由民権運動のはじまり		
		1 自由民権期の社会 1 大日本帝国憲法		
7	1	2 第2章 二つの戦争と大日本帝国 第1節 日清戦争と日露戦争	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治前半では、条約改正が最大の外交課題であり、この克服においては、国際情勢と国内情勢の推移が密接に関係し、進められたことを理解する。</li> <li>・日清・日露戦争のおこった原因と、その結果について理解する。</li> </ul>	講義 講義 講義、演習
		2 19世紀末の東アジア 日清戦争 東アジアの变革		
9	4	2 日露戦争から韓国併合へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資本主義の発展にともない、都市における社会問題が発生したことを理解する。</li> </ul>	講義 講義 講義
		第2節 帝国形成期の社会 産業化の進展		
10	4	2 日本国民の誕生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政党政治の成立と、その背景にあったデモクラシーの風潮の高まりについて理解する。</li> <li>・太平洋戦争に至る過程のなかで、国民生活はどのように変化したのかを理解する。</li> </ul>	講義 講義 講義、演習
		2 社会問題から社会運動へ		
11	4	2 第3章 帝国とデモクラシー 第1節 大正デモクラシー 第一次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策、民主化の諸改革の内容について理解する。</li> <li>・高度経済成長の実態と、その歴史的意義について理解する。</li> </ul>	講義 講義 講義、演習 中間考査
		2 第2節 ザルサイエ体制とロシア革命 日本の植民地		
		2 第4章 デモクラシーの展開と帝国の変容 昭和恐慌		
		2 第5章 アジアの戦争と第二次世界大戦 第1節 日中15年戦争 第2節 アジア太平洋戦争		
12	1	2 満州事変、日中戦争	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石油危機にともなう日本国内の動きを、国際情勢の動向をふまえて、理解する。</li> </ul>	講義 講義
		2 戦時下の社会と抵抗		
1	3	2 第6章 現代日本の脈流 第1節 戦後世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の日本がかかえる諸課題について、国際社会での役割、国内的な問題という面から考察する。</li> </ul>	講義 調べ学習 演習
		2 占領、主権、日本国憲法 サンフランシスコ体制、沖縄 55年体制		
1	3	2 第7章 冷戦のなかの経済成長 ベトナム戦争、沖縄返還	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の日本がかかえる諸課題について、国際社会での役割、国内的な問題という面から考察する。</li> </ul>	講義 調べ学習 演習
		2 石油危機		
		2 第8章 現代の日本 冷戦の終焉、現代日本の課題		学年末考査

令和 4年度	科目名 地理A	単位数 2	学科・学年 3学年（選択）	
-----------	------------	----------	------------------	--

### 1. 学習の到達目標

学習の到達目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地理的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	高等学校地理A 世界に目を向け、地域を学ぶ（第一学習社） 高等地図帳（二宮書店）

### 2. 評価の観点

評価観点	関心・意欲・態度 思考・判断・表現 資料活用 知識・理解	定期考査	授業の取組	ノート提出	課題提出	科目による評価規準 ・授業中の取り組みの姿勢、提出状況を特に重視する。
		○	◎	◎	◎	
		○	○			
		○			○	
		◎	○	○	○	

### 3. 年間計画

月	週	配当時間	学習項目	学習到達目標	学習の方法									
4	3	1	第1編 現代社会の特色と諸課題の地理的考察	緯度・経度、時差、図法などについて理解し、地図を活用する力を身につける。また国家や領土について考える。  グローバル化する国際社会のなかで、人や「もの」などの動きや国家間の結びつきについて理解する。  世界の自然環境を学び、人間生活との関わりについて考察する。世界の気候、生活文化、民族・宗教と国家の関係を理解する。  日本の近隣諸国や世界の国家に関して理解を深め、国際社会においてよりよき関係を構築する態度を身につける。	講義 演習 講義 演習 講義 講義 講義 講義 中間考査									
			1章 地球儀や地図でとらえる現代社会											
			球面で世界を考えよう											
			世界地図の特徴を知ろう											
			世界観の広がりや地図											
			国家の領域と領土問題											
			国家をこえた結びつき											
			交通機関の発達と縮小する地球世界											
			情報・通信で一体化する世界											
			人・「もの」・資本で結びつく世界											
5	4	1	2章 世界の人々の生活を取り巻く地理的環境	世界の自然環境を学び、人間生活との関わりについて考察する。世界の気候、生活文化、民族・宗教と国家の関係を理解する。	講義 講義 講義 講義 演習 期末考査									
			1 さまざまな環境のなかで生きる人々											
			1 世界的視野から見た地形											
			2 さまざまな地形と生活											
			2 世界的視野からみた気候											
			6			4	2	2 世界の気候と生活	日本の近隣諸国や世界の国家に関して理解を深め、国際社会においてよりよき関係を構築する態度を身につける。	講義 講義 講義 講義 演習 期末考査				
			2 世界の民族のさまざまな生活・文化											
			2 生活・文化を支える産業の地域性											
			7					1			2	3章 世界の諸地域の生活・文化と環境	今日の地球的課題を理解し、その解決に向けて主体的・積極的に取り組む態度を身につける。	講義 講義 講義 講義 演習 中間考査
			1 東アジアの暮らしを学ぶ											
1 東南アジアの暮らしを学ぶ														
1 南アジアの暮らしを学ぶ														
1 北アフリカ・西アジア・中央アジアの暮らしを学ぶ														
9	4	1	1 中南アフリカの暮らしを学ぶ	自分の住んでいる地域についての理解を深め、地理的な知識をどう活かしていくかを考える。	講義 講義 講義 講義 演習									
			1 ヨーロッパの暮らしを学ぶ											
			1 ロシアと周辺諸国の暮らしを学ぶ											
			1 北アメリカの暮らしを学ぶ											
			1 中央・南アメリカの暮らしを学ぶ											
			1 オセアニアの暮らしを学ぶ											
			10			4	2	4章 さまざまな地球的課題	防災に対する意識を高め、災害にどう備えていくのかを考える。	期末考査 講義 講義 演習 学年末考査				
								2 地域の違いとつながりに注目する						
								2 人口問題、食料問題 都市・居住問題						
								2 資源・エネルギー問題、地球環境問題						
2 地球的課題への取り組みと国際協力														
11	4	2		第2編 生活圏の地理的考察	自分の住んでいる地域についての理解を深め、地理的な知識をどう活かしていくかを考える。			講義 講義 演習						
				1章 日常生活と結びついた地図										
				2 地図をもって生活しよう										
				2 身近な地図を読みこなそう										
				2 地図表現について考えよう										
			2 地形図を活用しよう											
			12	1		1	2章 自然環境と防災		防災に対する意識を高め、災害にどう備えていくのかを考える。	期末考査 講義 講義 演習 学年末考査				
							1 日本の自然と生活							
							1 自然災害に備えた暮らし							
							1				2	2	3章 生活圏の地理的な諸課題と地域調査	自分の住んでいる地域についての理解を深め、地理的な知識をどう活かしていくかを考える。
2 地域調査の方法														
2 水の恵みのまち「川北町」を考える														